



Iya: A sprawling mountainside hamlet in the sky

# 高地性傾斜地に広がるソラ集落「祖谷」 徳島県三好市

特集 山のマチ、山のムラ  
Special Features / Mountain Towns and Villages

株式会社建設技術研究所／管理本部広報室  
米山 賢（会誌編集専門委員）  
YONEYAMA Ken

## 徳島県西部に広がる「ソラ集落」

徳島県西部には、「ソラ集落」と呼ばれる独特な集落が点在している。ソラ集落とは、徳島県を中心とする四国山地の急峻な山間部に見られる集落形態で、山の中腹にある尾根や斜面などの高所に形成されるのが特徴である。河川沿いの集落より標高が200～300mほど高く、全国的にも珍しい存在である。「ソラ」という言葉は地元の方言で「山の中腹の平地」や「谷と尾根の間の開けた場所」を意味し、こうした地形に集落が築かれたことからソラ集落と呼ばれるようになった。かつては耕作地を確保するため、山腹に家々が建てられ、斜面を利用した段々畑で農業が営まれてきた。

険しい自然環境の中で生活の知恵と工夫を凝らして形成されたソラ集落は、今も地域文化や歴史を物語る貴重な存在である。

## 急峻な斜面が多い徳島県

徳島県は県面積の約8割を山地が占め、全国でも山地率が高い地域である。県中央から西部にかけて四国山地が広がり、急峻な地形が目立つ。一方、県都の徳島市をはじめ主要都市は吉野川下流域の平野部に集中し、人口や産業の大半がこの低地に立地している。県内で傾斜度15°未満の緩やかな地形は全体のわずか19%にとどまり、全国平均約35%を大きく下回り、高知県に次いで低い割合である。徳島県西部においては山地率が一層高く、平坦地はほとんど存在しない。

現代では、平坦地の少なさが農業や都市開発に制約を与え、住宅や道路の配置、交通網の整備にも影響している。また、山間部では過疎化や高齢化が進み、生活環境の維持が課題となっている。こうした地形的特徴は、土地利用や生活様式、防災面にも

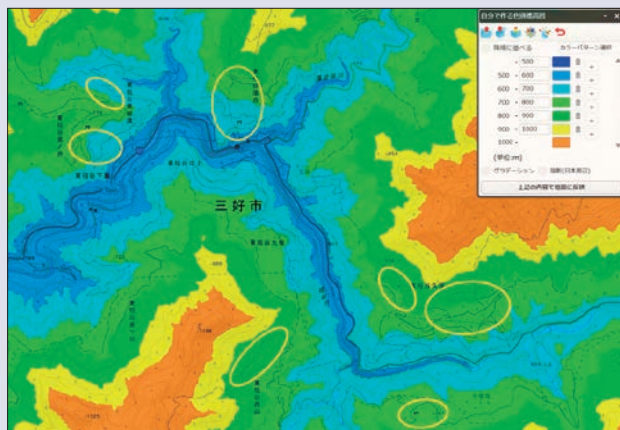


図1 ソラ集落の分布状況（三好市祖谷地区）

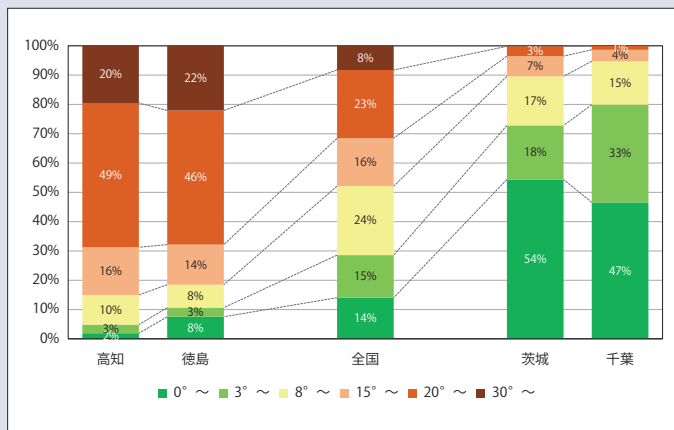


図2 都道府県別・傾斜度別面積（傾斜度15°未満面積が小さい順で表記）

大きな影響を及ぼしている。

それにもかかわらず、当該地域ではソラ集落と称される高地の集落が形成されてきた。この居住形態は、いかなる要因によって成立したのであろうか。

## 集落が立地する緩斜面を生み出した要因

祖谷地区は、ソラ集落が点在する地域の一つで、吉野川の一次支川である祖谷川の中流から上流域に位置する。集落は祖谷川やその支川沿いの斜面に分布し、周囲の急斜面に比べて比較的緩やかな地形に立地している。この緩斜面は、当該地域が大規模な地すべり地帯であり、過去の地すべりによって形成された緩傾斜地が集落の基盤となった結果と考えられている。

祖谷地区を含む地域は三波川変成帯に属し、結晶片岩を主体とする地質である。片理構造に沿った風化や地下水の浸透により、地すべりが発生しやすい特性を持つ。このため、祖谷地区では古くから地すべり地形が集落形成に影響を及ぼしてきたと考えられる。

## ソラ集落の暮らし

ソラ集落は、独特な地形条件の中で営まれる生活空間を特徴としている。家の建設場所や人や荷物の移動経路、さらには農地に至るまで、生活のほとんどが斜面上に配置されている。この斜面は地すべりによって形成されたもので、周囲の急峻な山地に比べれば緩やかであるが、平地のような利便性があるわけではない。斜面特有の制約は依然として存在し、建物の基礎工事や農作業の効率、移動の安全性など、日常生活には多くの課題があった。

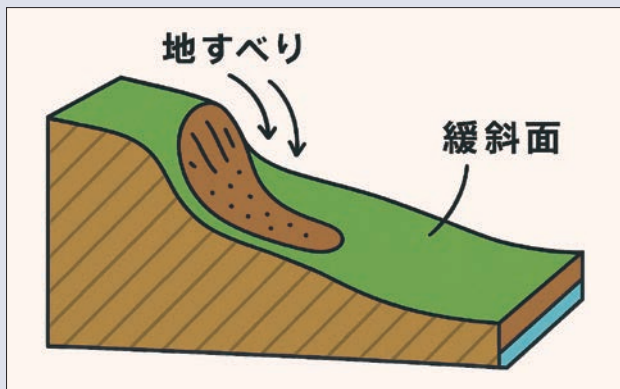


図3 地すべりによる緩斜面の形成イメージ

そのため、住民は長年にわたり、こうした不便さを克服するために工夫を重ねてきた。これらの取り組みは、自然条件に適応しながら生活を維持する知恵の結晶であり、斜面集落ならではの文化や景観を形成している。

## 高地・斜面生活を可能にしたさまざまな工夫

祖谷地区では古くから自給自足の農業が営まれ、



写真1 斜面の状況（祖谷地区落合集落）





写真2 住居と石垣（祖谷地区落合集落）

水稻や麦、稗<sup>ひえ</sup>、蕎麦、じゃがいも、こんにゃく、ゼンマイ、ワラビ、栗など多様な作物が栽培されてきた。高地で水稻が育ったのは、地すべり地帯に湧く水を利用できたためである。換金作物としては、たばこや三桮<sup>みつまた</sup>、茶、養蚕が重要で、現金収入を得る手段となった。急傾斜地での農作業は過酷であり、石を一つひとつ積んで石垣を築き、土壌流出を防ぐ工夫が欠かせなかった。交通の不便さから肥料や生活物資の搬入は困難で、冬季には集落が孤立することもあった。林業も盛んで、木材や木炭の生産が生活と雇用を支え、山の資源を最大限に活かした暮らしが続いていた。

### なぜ高地・斜面に集落が形成されたのか

徳島県西部では平地が乏しい一方、高地には次のような利点があった。

- ・地盤の安定性
- ・災害リスクの低さ
- ・安定した水資源
- ・十分な日照

これらの条件が高地での居住を促し、ソラ集落の形成につながったと考えられる。

### 地盤の安定性

吉野川流域は急流による浸食や土砂災害が頻発し、特に河岸部は洪水や氾濫の危険性が高い地域として知られている。そのため、居住地の選定において地形や地盤の安定性は重要な要素となる。こうした中、ソラ集落が位置する高

地は比較的地盤が安定し、河川の氾濫や浸水の影響を受けにくいと、周辺地域に比べて安全性が高いと考えられる。ただし、この地域には地すべりの潜在的な危険性が残されている点に留意する必要がある。興味深いのは、過去の地すべり区域の中央に古くから神社が存在し、その周囲に長寿の樹木が今も残っていることである。これらの痕跡は、人々が長い年月にわたり自然と共生しながら生活を営んできた歴史を物語っている。こうした背景から、ソラ集落は地すべりのリスクを抱えつつも、生活を維持し続けることができたと考えられる。

### 災害リスクの低さ

集落は山の中腹に位置し、台風や豪雨による河川の氾濫や浸水といった水害の影響を受けにくい利点がある。急斜面にあるため排水性が高く、雨水が滞留しにくいことから洪水の危険性は比較的低い。また、標高が高いため、平野部に比べて水害に対する自然の防御機能が備わっている点も特徴である。

一方で、地形的な制約は大きく、谷底のV字谷沿いには居住に適した平地がほとんど存在しない。そのため道路は必然的に河川沿いに敷設され、豪雨時には土砂崩れや落石による通行止めのリスクが高まる。こうした状況では、集落の孤立を防ぐための通行ルート確保が困難となる。

このような背景から、当該地域の山間部における集落は、歴史的に水害を避ける目的で山の中腹に形成されてきたと考えられる。



写真3 田畑と石垣（祖谷地区落合集落）



写真4 集落中央部に現存する三所神社（祖谷地区落合集落）



写真5 V字谷の祖谷溪（三好市）

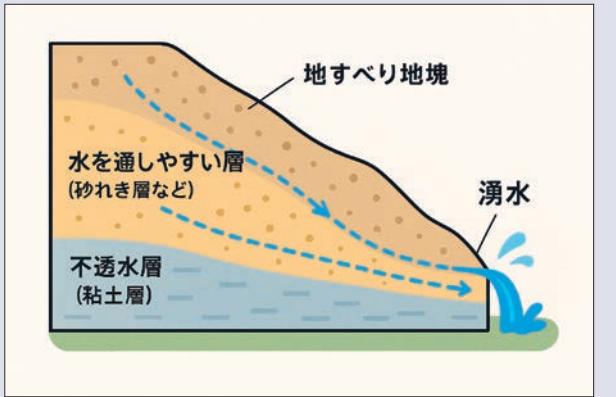


図4 地すべり地形と湧水発生のイメージ

### 安定した水資源

この地域は地すべり地形であるため、斜面の移動によって地下水が集まりやすく、特に地形の端部では湧水が豊富に得られた。湧水は年間を通じて安定して流れ、飲料水や炊事、農作業など生活のあらゆる場面で利用されてきた。山間部では水の確保が困難なことが多く、こうした安定した水源の存在は集落の存続に不可欠であった。特に農業では湧水を利用したかんがいが可能となり、稲作や畑作の生産を支え、食料の安定供給に寄与した。さらに、湧水は生活用水としてだけでなく、防火や家畜の飼育にも活用され、暮らしの安全性を高める役割も果たした。

こうした水資源の恩恵は定住を促す要因となり、地形と水の関係が人々の生活様式や地域文化の形成に深く関わっていたことがうかがえる。

### 十分な日照

深いV字谷の谷底は急峻な山々に囲まれ、太陽光が届く時間が極めて短く、日照条件は不十分であった。このため、光合成に必要な光が不足し、作物の生育は大きく制限され、農業には適さない環境となった。さらに、谷底は冷涼な気候と高湿度に特徴づけられ、病害の発生リスクが高まり、安定した収穫を得ることは困難であった。

こうした自然条件は農地の確保や作物栽培を妨げ、人々の生活に大きな影響を与えた。その結果、住民は谷底を避け、より日照や排水条件の良い中腹や高地に生活の場を求めるようになり、集落や農地は山腹に分布した。

### 「ソラ集落」を成立させた山村生活の優位性と合理性

日本の国土は約7割が山地や丘陵地で占められているが、徳島県はその割合をさらに上回り、急斜面の多さでも際立っている。このような厳しい地形条件にもかかわらず、県西部では古くから山村生活が続いてきた。それは、平地に劣らない、あるいはそれ以上の合理性と優位性が存在したためである。

この地域では平地が極めて少なく、急峻な地形が広がるため、集落は山の中腹や高地に形成されることが多かった。ソラ集落もその典型例であり、平地の集落に比べて水害や土砂災害の危険が少なく、比較的安全な居住環境を確保できるという利点があった。さらに、湧水を利用した農業や林業が可能で、山の資源を活かした生活が営まれたことも、高地居住を選んだ重要な理由である。

このように、ソラ集落は急峻な地形をはじめとする自然条件に適応し、生活の合理性を追求した結果として必然的に生まれた集落であったといえる。

<取材協力、資料提供>  
1) 三好ジオパーク推進協議会

<参考資料>  
1) 「地理院地図」国土地理院Webサイト  
2) 「第六十五回日本統計年鑑」総務省統計局 2016（平成28）年  
3) 「三好ジオパーク」三好ジオパーク推進協議会 2025（令和7）年  
4) 「地すべり地形分布図」防災科学技術研究所  
5) 「東祖谷山村誌」徳島県三好郡東祖谷山村 1978（昭和53）年  
6) 「西祖谷山村史」徳島県三好郡西祖谷山村 1985（昭和60）年

<写真提供>  
P26上写真、写真1 三好ジオパーク推進協議会  
写真2 佐治雅之 写真3 田中知実  
写真4 米山賢 写真5 松田明浩